

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	市民局
	政策	多様性を尊重する社会の確立		課(室)名	人権・男女共同参画推進課
	施策	人権尊重・平和意識の普及・高揚		電話番号	087-839-2292
	取組方針	人権啓発の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	人権啓発推進事業			

【事業全体概要】

事業概要	基本的人権を尊重する社会を確立するため、同和問題を始めとする様々な人権問題の解決に向け、研修講座や講演会の開催など、各種啓発事業を行う。				
年度概要	人権啓発推進員（コミュニティ協議会選出）の支援 人権・同和問題指導者研修講座の開催等 ハンセン病を正しく理解する講演会、パネル・作品展の開催 人権フェスティバルの開催 民間と連携した啓発活動、企業等への啓発				
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令	人権教育及び人権啓発の推進に関する法律、

【事業の目的】

対象（何を）	高松市民
意図（どのような状態にしたいか）	市民のあらゆる人権問題に関する啓発を行い、市民の人権に対する理解を深める。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
講演会等の開催回数	回	0	0	5	5	5

【事業の成果】

成果指標	成果指標名 （どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		参加人数（人権啓発推進員による啓発事業、講演会等）	人	目標値 実績値	0 0	0 0	1,500 1,466	1,500
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	人権啓発推進員の工夫により様々な形態での啓発事業を実施し、広く市民の人権意識の普及・高揚に努めているが、目標値の達成には至らなかった。	(目標達成度) 97.7%	(得点) 34点					
成果指標	成果指標名 （どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
			目標値 実績値					
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
		(目標達成度)	(得点)					

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	60,435	61,156	64,730	66,444
(事業費)	[千円]	37,983	38,575	41,570	43,284
(職員人件費)	[千円]	22,452	22,581	23,160	23,160

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	人権啓発推進員（コミュニティ協議会選出）の支援 人権・同和問題指導者研修講座の開催等 ハンセン病を正しく理解する講演会、パネル・作品展の 開催 人権フェスティバルの開催 民間と連携した啓発活動、企業等への啓発	1,415千円 636千円 658千円 817千円 38,042千円	総額	41,570	
			特定財源	国	636
				県	1,506
				市債	0
				他	158
			一般財源	39,270	
令和 7 年度	人権啓発推進員（コミュニティ協議会選出）の支援 人権・同和問題指導者研修講座の開催等 ハンセン病を正しく理解する講演会、パネル・作品展の 開催 人権フェスティバルの開催 民間と連携した啓発活動、企業等への啓発	1,415千円 1,348千円 1,599千円 1,622千円 37,300円	総額	43,284	
			特定財源	国	1,347
				県	2,631
				市債	0
				他	759
			一般財源	38,547	

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	1	検討の余地がある

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	90 / 100 (90%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

開催回数を重ねることで着実に事業が定着している。新型コロナウイルス感染症の流行による中止を経て、オンラインによる開催など、啓発方法を工夫しながら啓発活動を実施することで、人権意識の普及・高揚に努めた。今後も啓発活動を継続し、更なる啓発に努める。

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入）

人権尊重都市たかまつ市民会議との連携強化に努める。
高松市人権施策推進懇談会の意見を聴取し、各種啓発事業に反映する。
デジタル行政の推進に伴い、県事業と重複する事業は統合を検討する。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	市民局
	政策	多様性を尊重する社会の確立		課(室)名	人権・男女共同参画推進課
	施策	人権尊重・平和意識の普及・高揚		電話番号	087-839-2292
	取組方針	人権啓発の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	隣保館・児童館管理運営事業			

【事業全体概要】

事業概要	文化センター・児童館は、地域社会全体の中で、福祉の向上や人権啓発の住民交流の拠点となる開かれたコミュニティセンターとして、生活上の各種相談事業や人権問題の解決のための各種事業を行うとともに、健全な遊び等を通して、児童の健康を増進するなど、児童の健全育成を図る。				
年度概要	文化センター・児童館の管理、運営等 文化祭及び交流事業等 各種研修会への参加等				
重点取組事業		市長マニフェスト	関連根拠法令	社会福祉法，児童福祉法	

【事業の目的】

対象（何を）	地域住民
意図（どのような状態にしたいか）	1 文化センターが、地域社会全体の中で、福祉の向上や人権啓発の住民交流の拠点となるよう各種事業を総合的に行う。 2 児童の健康を増進し、情操を豊かにする。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
各種事業実施回数	回	0	0	3,563	3,000	3,000
児童館開館日数	日	0	0	1,468	1,476	1,476

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		隣保館利用者数	人	目標値 実績値	0 0	0 0	55,000 49,735	55,000
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	コロナ禍前の水準に近づくよう、教養・文化活動の各種講座を行ったが、目標値を下回った。	（目標達成度） 90.4% （得点） 32点						
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		児童館利用者数	人	目標値 実績値	0 0	0 0	32,000 26,632	32,000
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	コロナ禍前の水準に近づくよう児童館事業を開催したが、利用者は目標値を上回った。	（目標達成度） 83.2% （得点） 29点						

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	187,652	190,329	200,786	202,173
(事業費)	[千円]	39,469	41,294	47,930	49,317
(職員人件費)	[千円]	148,183	149,035	152,856	152,856

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	文化センター・児童館の管理、運営等 文化祭及び交流事業等 各種研修会への参加等	45,180千円 6,689千円 1,792千円	総額	47,930	
			特定財源	国	6,689
				県	0
				市債	0
				他	1,606
一般財源	39,635				
令和 7 年度	文化センター・児童館の管理、運営等 文化祭及び交流事業等 各種研修会への参加等	44,011千円 1,409千円 2,221千円	総額	49,317	
			特定財源	国	32,451
				県	0
				市債	0
				他	51
一般財源	16,815				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
効率性	事業実施手法としては最適か。	5	現状が最適である
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	3	概ね効率的にできている

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	87 / 100 (87%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】 (評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

新型コロナ前の水準に近づくよう教養・文化活動などの各種講座の開催、利用者からの相談等には随時適切に対応した。

【今後の事業方針】 (評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

さらに多くの人に来館してもらえよう、各種事業の見直しなどを行う。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	市民局
	政策	多様性を尊重する社会の確立		課(室)名	人権・男女共同参画推進課
	施策	人権尊重・平和意識の普及・高揚		電話番号	087-839-2292
	取組方針	人権啓発の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	L G B T 啓発等推進事業			

【事業全体概要】

事業概要	L G B T 啓発講演会等を実施するとともに、ポスター・パンフレットを作成し、市民に対してL G B T への認知度の向上と理解の促進を図ることにより、当事者を含め全ての人が暮らしやすい環境を整備する。				
年度概要	啓発講演会 研修会の開催 LGBT展の開催 啓発パンフレット作成				
重点取組事業		市長マニフェスト	5-	関連根拠法令	L G B T 理解増進法

【事業の目的】

対象（何を）	高松市民
意図（どのような状態にしたいか）	一人一人の多様性が尊重される社会の実現を目指し、L G B T に対する差別や偏見が解消される取組を進めていく。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
講演会等の開催回数	回	0	0	3	2	2

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8	
		講演会等で理解が深まった人の割合	%	目標値 実績値	0 0	0 0	95 96.2	95	95
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）								
	当事者を講師として招へいし、講演会や研修を実施することで、市民や市職員のL G B T に対する関心の高まりも見られ、目標を達成することができた。			(目標達成度)	101.3%				
				(得点)	35点				
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8	
			目標値 実績値						
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）								
				(目標達成度)					
				(得点)					

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	7,574	7,954	8,739	8,995
(事業費)	[千円]	90	427	247	503
(職員人件費)	[千円]	7,484	7,527	8,492	8,492

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	啓発講演会 研修会の開催 LGB展の開催 啓発ポスター作成	1 1 5 千円 5 0 千円 4 8 千円 3 6 千円	総額	247	
			特定財源	国	0
				県	197
				市債	0
				他	0
一般財源	50				
令和 7 年度	啓発講演会 研修会の開催 LGB展の開催 啓発パンフレット作成	2 3 8 千円 5 0 千円 5 0 千円 1 6 5 千円	総額	503	
			特定財源	国	0
				県	453
				市債	0
				他	0
一般財源	50				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	5	高まっている
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
	住民福祉の向上に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	94 / 100 (94%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】 (評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

講演会等を実施することで、職員を始め市民のLGBTなど性的少数者に対する正しい知識や対応についての理解が深まるよう周知啓発に努めた。また、啓発ポスターを作成し、市内の保育所、幼稚園、小中学校や市所有施設等配布し、掲示依頼をした。今後も、LGBTに対する正しい理解の促進等に向け、継続的に周知啓発を行っていくことが必要である。

【今後の事業方針】 (評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

LGBTなど性的少数者に関する市民の認知度は、高まっているものの、まだまだ、正しい理解がされていないことから、いじめや差別に苦しむ当事者が少なくないのが現状であり、LGBT当事者の声にも耳を傾けながら、当事者の人を含め、全ての人がともに安心して自分らしく生きることができ、活躍できる社会づくりに向けて、より積極的に周知啓発に取り組んでいく必要がある。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	市民局
	政策	多様性を尊重する社会の確立		課(室)名	人権・男女共同参画推進課
	施策	人権尊重・平和意識の普及・高揚		電話番号	087-839-2292
	取組方針	人権啓発の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	文化センター・児童館整備事業			

【事業全体概要】

事業概要	地域における福祉の向上や人権啓発のための「住民交流の拠点」である文化センターと、健康増進や情操教育など、児童の健全育成を図るための児童館の適切な管理運営のため、「文化センター・児童館改修計画」に基づき、施設の計画的な修繕・改修を行う。				
年度概要	上天神文化センター改修再積算 上天神文化センター仮施設賃借等				
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令	文化センター・児童館改修計画

【事業の目的】

対象（何を）	文化センター・児童館の各施設
意図（どのような状態にしたいか）	地域社会全体の中で、福祉の向上や人権啓発の住民交流の拠点となっている文化センター及び児童の健康を増進し、情操を豊かにする児童館の修繕、改修を行うことで、各種事業の円滑な実施を図る。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
文化センター・児童館改修計画に基づく改修施設数	館	0	0	0	0	1

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		文化センター・児童館改修進捗率（事業費）	%	目標値 実績値	0 0	0 0	80.13 80.87	84.1
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	上天神文化センター改修については、計画に基づき設計等を実施しており、進捗率は達成できた。			(目標達成度) 100.9%				
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
				(目標達成度)				
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
				(得点) 35点				

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	108,826	132,165	44,825	30,199
(事業費)	[千円]	93,858	117,111	29,385	14,759
(職員人件費)	[千円]	14,968	15,054	15,440	15,440

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	吉光児童館解体工事 上天神文化センター実施設計	23,404千円 5,971千円	総額	29,385	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	27,500
				他	1,000
一般財源	885				
令和 7 年度	上天神文化センター改修再積算 上天神文化センター仮施設賃借等	1,450千円 13,309千円	総額	14,759	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	14,759				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
効率性	事業実施手法としては最適か。	5	現状が最適である
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	98 / 100 (98%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】 (評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

改修計画に基づき、地元との協議を適宜実施し、計画通り進めた。

【今後の事業方針】 (評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

各施設の地元関係者との協議を適宜実施し、計画年度内の完了を目指す。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	市民局
	政策	多様性を尊重する社会の確立		課(室)名	人権・男女共同参画推進課
	施策	人権尊重・平和意識の普及・高揚		電話番号	087-833-2211
	取組方針	平和意識の普及啓発		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	平和啓発推進事業			

【事業全体概要】

事業概要	戦争の悲惨さと平和の尊さを訴えるとともに、平和意識の啓発・普及を図るため、「平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭」、「高松市戦争遺品展」、「教職員のための平和教育講演会」等の行事を開催する。また、子どもたちが戦争を知り、自ら平和について考える場を提供するため、こども未来館学習と連携して、市内の小学校4年生などを対象に平和学習を実施する。 なお、平和記念室の閉館に伴い、平成24年3月から収藏品等の常設展示は休止していたが、28年11月の平和記念館開館により再開している。			
年度概要	平和記念館の維持管理と平和意識の啓発・普及事業の開催、平和記念館常設展示、平和記念だよりの発行、平和学習の実施（小学校4年生など） 平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭、小中学生のための平和講演会、高松空襲展、高松市戦争遺品展、原爆パネル展、教職員のための平和教育講演会、収藏品巡回展などの開催			
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令

【事業の目的】

対象（何を）	市民
意図（どのような状態にしたいか）	平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭などの開催、小学校4年生などを対象とした平和学習の実施により、市民に戦争の悲惨さと平和の尊さを訴え、平和意識の向上を図る。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
平和意識の啓発事業の回数	回	0	0	8	8	8

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		平和意識の啓発事業の参加者数	人	目標値 実績値	0 0	0 0	8,250 8,107	8,250
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	高松市平和を願う市民団体協議会との共催による原爆パネル展の開催及び小中学校での平和講演会を開催した結果、参加者数が前年度に比べ増加したものの、目標値を達成できなかった。			（目標達成度） 98.3%		（得点） 34点		
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
			目標値 実績値					
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
				（目標達成度）		（得点）		

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	20,500	21,797	24,202	24,056
(事業費)	[千円]	12,268	13,517	15,710	15,564
(職員人件費)	[千円]	8,232	8,280	8,492	8,492

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	平和記念館の維持管理と平和意識の啓発・普及事業の開催、平和記念館常設展示、平和記念だよりの発行、平和学習の実施(小学校4年生など) 平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭、小中学生のための平和講演会、高松空襲展、高松市戦争遺品展、原爆パネル展、教職員のための平和教育講演会、収蔵品巡回展などの開催	14,793千円 917千円	総額	15,710	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	15,710				
令和 7 年度	平和記念館の維持管理と平和意識の啓発・普及事業の開催、平和記念館常設展示、平和記念だよりの発行、平和学習の実施(小学校4年生など) 平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭、小中学生のための平和講演会、高松空襲展、高松市戦争遺品展、原爆パネル展、教職員のための平和教育講演会、収蔵品巡回展などの開催	14,602千円 962千円	総額	15,564	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	15,564				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	5	高まっている
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	94 / 100 (94%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

全体の参加者数は昨年度に比べ増加した。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

事業内容等を検討し、更に多くの人々が平和啓発事業に参加できるようにする。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	市民局
	政策	多様性を尊重する社会の確立		課(室)名	人権・男女共同参画推進課
	施策	誰もが活躍できる環境の形成		電話番号	087-839-2292
	取組方針	男女共同参画の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	女性団体育成事業			

【事業全体概要】

事業概要	女性の人権や社会的地位の向上を目指して、相互理解の下にネットワークを形成し、女性を取り巻く諸環境の変化に対応した各種事業を行うことで、男女共同参画の視点から、地域社会の発展に寄与することを目的とする女性団体を組織する団体の活動を支援する。				
年度概要	高松市内の女性団体を組織する団体の活動支援				
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令	男女共同参画社会基本法

【事業の目的】

対象（何を）	高松市内の女性
意図（どのような状態にしたいか）	女性の社会参画の促進、団体交流による地域活動の充実・活性化及び地域を支える人づくりの促進を図る。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
補助金交付団体数	団体	0	0	1	1	1
団体活動回数	回	0	0	19	20	20

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		コミュニティ協議会における正副会長のうち女性の割合	%	目標値 実績値	0 0	0 0	25 20.8	28
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	昨年度よりは、割合が上昇したものの、目標は達成できなかった。							
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	2,237	2,245	2,224	2,224
(事業費)	[千円]	740	740	680	680
(職員人件費)	[千円]	1,497	1,505	1,544	1,544

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	高松市内の女性団体を組織する団体の活動支援	補助金 680千円	総額	680	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
			一般財源	680	
令和 7 年度	高松市内の女性団体を組織する団体の活動支援	補助金 680千円	総額	680	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
			一般財源	680	

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
	住民福祉の向上に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	3	概ね効率的にできている

評価ランク	A (80%~ 100%)	B	総合点 (率)	78 / 100 (78%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

補助金交付団体と連携しながら、男女共同参画を推進した。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

補助金交付団体に対し、本来の目的がより効果的に達成できるよう、引き続き協力していく。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	市民局
	政策	多様性を尊重する社会の確立		課(室)名	人権・男女共同参画推進課
	施策	誰もが活躍できる環境の形成		電話番号	087-839-2292
	取組方針	男女共同参画の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	男女共同参画社会推進事業			

【事業全体概要】

事業概要	男女共同参画都市宣言（平成9年12月18日）の趣旨を踏まえ、社会のあらゆる分野に男女が共に参画し、個性豊かで充実した人生を送ることができる男女共同参画社会づくりを目指し、関係機関や関係団体と連携・協力して各種行事を実施するなど啓発活動を行う。				
年度概要	男女共同参画週間啓発行事 男女共同参画推進懇談会 男女共同参画市民フェスティバル				
重点取組事業		市長マニフェスト	3-	関連根拠法令	男女共同参画社会基本法

【事業の目的】

対象（何を）	高松市民
意図（どのような状態にしたいか）	男女共同参画社会に関する理解を深める。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
男女共同参画週間事業の開催日数	日	0	0	7	7	7

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8	
		男女共同参画週間事業に対する満足度（アンケート等）	%	目標値 実績値	0 0	0 0	80 94.4	80	80
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）								
	事業実施の際に行ったアンケートにおいて、「よかった」、「とてもよかった」と回答した人の割合は、94.4%となり、目標を達成することができた。			(目標達成度)	118.0%				
				(得点)	35点				
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8	
			目標値 実績値						
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）								
				(目標達成度)					
				(得点)					

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	5,456	5,393	3,961	3,947
(事業費)	[千円]	966	877	873	859
(職員人件費)	[千円]	4,490	4,516	3,088	3,088

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	男女共同参画週間啓発行事 男女共同参画推進懇談会 男女共同参画市民フェスティバル	96千円 159千円 618千円	総額	873	
			特定財源	国	0
				県	83
				市債	0
				他	0
一般財源	790				
令和 7 年度	男女共同参画週間啓発行事 男女共同参画推進懇談会 男女共同参画市民フェスティバル	70千円 171千円 618千円	総額	859	
			特定財源	国	0
				県	90
				市債	0
				他	0
一般財源	769				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	5	高まっている
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
	住民福祉の向上に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	3	概ね効率的にできている

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	92 / 100 (92%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

パネル展は、男女共同参画センターとIK DE瓦町の2か所で開催し、啓発グッズの配布等により周知啓発に努めた。今後も、より多くの方々に男女共同参画について理解を深めていただけるよう事業内容等を検討していく必要がある。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

今後においても、市民活動団体等と連携し、男女共同参画社会づくりのため、効果的な事業の実施に努める。

令和 6年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	市民局
	政策	多様性を尊重する社会の確立		課(室)名	人権・男女共同参画推進課
	施策	誰もが活躍できる環境の形成		電話番号	087-839-2292
	取組方針	男女共同参画の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	女性の就労相談事業			

【事業全体概要】

事業概要	女性の継続就業や再就職などを支援するため、相談窓口において、キャリアプランに関する相談や働く上での不安や悩みの相談に応じるほか、就業情報の提供や就職活動に関する具体的なアドバイス等を行う。				
年度概要	女性の就労相談事業				
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令	女性活躍推進法

【事業の目的】

対象（何を）	継続就業や再就職など、就労を希望する市内の女性
意図（どのような状態にしたいか）	女性の就業者数を増加させることにより、女性の職業生活における活躍を推進する。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
女性の就労相談実施日数	日	0	0	152	160	160

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		女性の就労相談窓口利用者のうち就業につながった人数	人	目標値 実績値	0 0	0 0	35 44	35
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	目標を達成することができた。			(目標達成度) 125.7%				
			(得点) 35点					
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
	女性の就労相談件数	件	目標値 実績値	0 0	0 0	250 334	250	250
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	目標を達成することができた。			(目標達成度) 133.6%				
			(得点) 35点					

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	4,720	0	0	0
(事業費)	[千円]	2,475	0	0	0
(職員人件費)	[千円]	2,245	0	0	0

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	女性の就労相談事業	男女共同参画センター管理運営費に含む。	総額	0	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
			一般財源	0	
令和 7 年度	女性の就労相談事業	男女共同参画センター管理運営費に含む。	総額	0	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
			一般財源	0	

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
	住民福祉の向上に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	3	概ね効率的にできている

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	90 / 100 (90%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】 (評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

男女共同参画センターの指定管理者に事業を委託することで、同センターで実施している他の相談事業とも連携し、効果的に事業を行った。また、SNS等を利用して事業の周知に努めた。今後も委託事業者と密接に連携しながら、効果的な情報発信に努めていく必要がある。

【今後の事業方針】 (評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

男女共同参画センターの指定管理者と連携し、引き続き女性の継続就業や再就職等の支援のため効果的に事業を実施する。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	市民局
	政策	多様性を尊重する社会の確立		課(室)名	人権・男女共同参画推進課
	施策	誰もが活躍できる環境の形成		電話番号	087-839-2292
	取組方針	男女共同参画の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	女性の活躍促進事業			

【事業全体概要】

事業概要	市内企業での積極的な女性の活躍促進やワーク・ライフ・バランスの推進を図るため、企業等のトップや管理職、女性社員、学生等を対象とした各種セミナーや講座等を開催する。				
年度概要	女性の活躍促進事業（各種セミナー等の開催、企業認定）				
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令	女性活躍推進法

【事業の目的】

対象（何を）	市内の企業（主に従業員数100人以下）、企業経営者、働く女性等
意図（どのような状態にしたいか）	企業経営者等を対象とした各種セミナーの開催等を行うことにより、女性の職業生活における活躍を推進する。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
各種セミナー開催件数	件	0	0	3	2	2

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8	
		各種セミナーに対する満足度（アンケートなど）	%	目標値 実績値	0 0	0 0	80 100	80	80
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）								
	事業実施の際に各セミナー等で行ったアンケートにおいて、満足度は100%となった。			(目標達成度)	125.0%				
				(得点)	35点				
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8	
			目標値 実績値						
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）								
				(目標達成度)					
				(得点)					

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	10,055	10,219	6,932	6,852
(事業費)	[千円]	2,571	2,692	2,300	2,220
(職員人件費)	[千円]	7,484	7,527	4,632	4,632

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	女性の活躍促進事業 各種セミナーの開催 企業認定 つながりサポート相談支援事業	1,998千円 303千円	総額	2,300	
			特定財源	国	998
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	1,302				
令和 7 年度	女性の活躍促進事業(各種セミナー等の開催、企業認定)	2,220千円	総額	2,220	
			特定財源	国	1,110
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	1,110				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	5	高まっている
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
	住民福祉の向上に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
効率性	事業実施手法としては最適か。	5	現状が最適である
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	96 / 100 (96%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

令和6年度は、アドバイザー派遣事業に代えて、性別役割分担意識を解消する一つとして、家事シェアワークショップを新たに実施した。今後とも、国や県の事業に注視しつつ、様々な団体と連携して女性の活躍促進を図る。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

今後とも、国や県の事業に注視しつつ、様々な団体と連携して女性の活躍促進を図る。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	市民局
	政策	多様性を尊重する社会の確立		課(室)名	人権・男女共同参画推進課
	施策	誰もが活躍できる環境の形成		電話番号	087-839-2292
	取組方針	ユニバーサルデザインの普及啓発		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	ユニバーサルデザイン推進事業			

【事業全体概要】

事業概要	平成25年5月に策定した「高松市ユニバーサルデザイン基本指針」に基づき、誰もが安心して快適に生活することのできる、ユニバーサルデザイン社会の実現を目指すため、様々な主体が協働して取り組む。 また、国が進める共生社会ホストタウンへの登録を契機として、その考え方や方向性について明らかにし、本市が率先して実践、啓発を行うことで、市民や事業者等にもユニバーサルデザインの考え方を広め、市全体で更なるユニバーサルデザインのまちづくりを推進する。				
年度概要	ユニバーサルデザインマップの運用保守 心のユニバーサルデザイン啓発事業 ユニバーサルデザイン展の開催等				
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令	高松市ユニバーサルデザイン基本指針

【事業の目的】

対象（何を）	高松市民（事業者、市民活動団体、市職員含む）
意図（どのような状態にしたいか）	ハード事業、ソフト事業の両面にユニバーサルデザインの考え方を取り入れるとともに、ユニバーサルデザインについての知識と理解を持つ人材の育成を図る。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
講座実施回数	回	0	0	4	3	3

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		たかまつユニバーサルデザインマップの登録件数	件	目標値 実績値	0 0	0 0	850 814	900
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	登録件数は814件となっており、目標値に対し、95.7%の達成度となった。							
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	登録件数は814件となっており、目標値に対し、95.7%の達成度となった。							

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	5,437	5,218	5,326	5,334
(事業費)	[千円]	947	702	694	702
(職員人件費)	[千円]	4,490	4,516	4,632	4,632

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	ユニバーサルデザインマップの運用保守 心のユニバーサルデザイン啓発事業 ユニバーサルデザイン展の開催等	594千円 100千円 0千円	総額	694	
			特定財源	国	0
				県	100
				市債	0
				他	0
一般財源	594				
令和 7 年度	ユニバーサルデザインマップの運用保守 心のユニバーサルデザイン啓発事業 ユニバーサルデザイン展の開催等	594千円 100千円 8千円	総額	702	
			特定財源	国	0
				県	100
				市債	0
				他	24
一般財源	578				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
	住民福祉の向上に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	3	概ね効率的にできている

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	90 / 100 (90%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】 (評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

昨年度は、日本財団パラスポーツサポートセンターに委託し、心のユニバーサルデザイン啓発事業を実施した。また、現在登録されている全施設を対象に、掲載情報の確認更新を行った。新規登録の件数が増えた一方で、施設の統廃合等により抹消した施設もあり、結果的に増加しなかった。そのほか、専門学校の授業の一環で、ユニバーサルデザインやバリアフリーの考え方に基いて整備されている1施設を新たにマップへ掲載することができた。今後も、マップへの施設の登録件数の増加や内容の充実に取り組む必要がある。

【今後の事業方針】 (評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

今後においても、ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりをより一層進める必要があるため、引き続き、ユニバーサルデザインマップの充実や、研修等による職員の意識の醸成を図るとともに、市民等に対しても、各種事業を通してユニバーサルデザインの考え方を継続的に啓発していく。